



ゆうがく

新年度、人間力を培う「学び」を考える

「^{あやう}学びて思はざれば則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆し」と孔子は、「学び」について記しています。「学んでは思い、思つては学ぶことにより進歩がある」が大意です。約2500年前の箴言、簡潔で分かりやすい教えます。新年度に当たり、「学び」について考えてみたいと思います。「学び」の目的は、人それぞれに異なりますが、この「学んでは考え、考えては学ぶ」ことは、とても重要で、日々の生活において活用したく思います。

新学期が始まりました。私自身、約50年前に大学に入学し、新たに始まる大学生活にワクワクしたのを覚えています。入学すると「一般教養」の授業があり、楽しい学びを期待しました。しかし、大教室での講義に興味を惹く授業は少なく、結局、少人数のゼミをいくつか選択しました。その一つが、「哲学」。このゼミは、デカルトの『方法序説』を輪読し、当番の学生が内容を紹介して出席者が意見を述べる形式でした。このゼミでデカルトの「我思う、故に我在り」を知りました。読んでは考え、考えては読む、「学び」の刺激を受け、考えることを楽しみ、大学のアカデミズムを感じました。

こうした「本の読み方」について、昭和の碩学、安岡正篤師は、「本の読み方にも二通りあり、一つは同じ読むと言っても、本から終始受ける読み方です。これは読むのではなくて、読まれるのです。一方、自分で考え、自分が主になって、今まで読んだものを再び読んでみる。今度は自分の方が本を読むのです。自分が主体となり、自分の心が書物の方を照らしてゆく」と述べています。この言葉は、「学び」の重要性、考えることの必要性を示唆していると感じます。じっくり「自分が主体となり」聖賢の書を味読し、人間力(自立した一人の人間として力強く生きるための人としての力)について学び、考

えたいと思います。私達は、一生で経験することが限られます。それを補うためにも、書物からの学びは、人間力を培う上で必要に思います。

また、安岡師は「学び」の目的を「それ学は通の為にあらざるなり。窮して困くまず、憂へて意衰こころえざるがためなり。禍福終始を知つて惑まどざるが為なり」(『荀子』)とし、「学問というものは決して出世や生活のための手段ではない。窮して悲鳴をあげたり、心配事のために直ぐべしゃんこになるようでは学とは言えない。何が禍であり何が福であるか、如何に始まり如何に終わるか、ということを知つて惑まどざるが為である」と述べています。私達は日々、色々な問題に直面し、考え、悩み、苦しむこともあり、色々な目的で「学び」ます。日々の生活には人間力と専門力が不可欠に思います。そして、仕事には専門力が不可欠ですが、複雑な人間関係の中では人間力が重要でしょう。『荀子』の箴言は、「学び」の本質を示し、人間力を培う「学び」に通じるもので、学生の皆さんが新学期を迎えるにあたり、是非味わってもらいたいと思います。

山形学習センター所長

安田 弘法





令和4年度 第2学期学位記授与式を開催しました

「令和4年度第2学期学位記授与式」を令和5年3月26日(日)に山形学習センター講義室において開催しました。

今回、本センターからは、教養学部14名並びに大学院文化科学研究科1名の皆さんが学位を取得されました。当日は、出席された3名の方々に、安田弘法所長から、お一人お一人に学位記が手渡されました。

山形学習センターでは、卒業時に特に優秀な学業成績を修められた学生について、顕彰しており、今回は、3つ目のコースを卒業された玉橋幸子さんと柴田治さんが「生涯学習奨励賞」を受賞されました。

安田所長の式辞では、卒業生に対し、卒業まで長年に渡りご努力され、学位を取得されたことに、お祝いと労いのお言葉がありました。

様々なご苦労や困難を克服されて、ご卒業された皆様、誠におめでとうございます。皆様の晴れやかな姿が、全科履修生の目標の一つになっています。

【教養学部】

生活と福祉コース	4名
心理と教育コース	7名
社会と産業コース	2名
人間と文化コース	1名

【大学院文化科学研究科】

臨床心理学プログラム	1名
------------	----



学位記授与式を終えての集合写真



卒業生体験談

生活と福祉コース 秋場 恵美さん

人間の心や体の構造について記されたインドの古典を別の視点から検証したく、放送大学に全科履修生として入学しました。心理と教育を専攻するにあたり、必須単位取得と卒業が申請条件である日本心理学会認定心理士資格を目標に定めました。最初の2年間は無我夢中で過ぎましたが、3年目位からは参考文献を講読したり、別コースの面接授業を受講したりする余裕もできました。卒業後、無事に資格を取得しましたが、興味は精神から肉体へと広がり、生活と福祉コースに再入学しました。そして、心と体の関係性、臨床、福祉について学び、今回2度目の卒業となりました。

人の身体を知るには自然科学の知識が必須です。また、社会、産業、経済、自我の拡大ともとれる情報学は人の社会性を教えてくれます。そして最終的にはそれらを総合的に捉える学問として、物理学と哲学に行きつくのだという漠たる思いがあります。私の人間を知る旅はまだまだ続きそうです。

生活と福祉コース 鈴木 聡さん

この度、定年退職と同時に2回目の卒業を迎えました。

1回目は、50歳になったときに「心理と教育」に入学しました。職場の若い人たちが最新の知見に基づき仕事をしているのを見て、「学び直し」の必要性を感じ入学しました。より深く学ぼうという意欲が高まり「臨床発達心理士」の資格を取得しました。途中で生涯学習に興味をもち、2年間休学して学芸員と図書館司書の資格を取得しました。結局「心理と教育」の卒業には休学期間を含めて8年間かかりました。2回目は「生活と福祉」に入学しました。こちらは、寄り道することなく2年間で卒業を迎えました。

私にとって放送大学の利点は2点あります。1点目は深く学べることです。2点目は選択しているコースに関係なく学べることです。面接授業で、羽黒山の宿坊に宿泊し全国各地から参加した仲間と語り合えたことは印象に残っている講義の一つです。

令和5年度からは「人間と文化」で学び続けます。よろしくお願います。

心理と教育コース 玉橋 幸子さん

ある日、テレビから流れてきた「薔薇戦争」という歴史用語。ハテ、どこの戦い？と疑問を持ったのが学ぼうと思ったきっかけです。当時、子育てに追われ知識という預金が底をついてカラカラだと感じていました。三男が幼稚園に入園すると同時に放送大学の門をたたいたのです。

知らないことが分かるのはとても心が充実し自信ができました。一番好きな歴史は勿論のこと、好きになれない人への対処、子どもや老いた父の気持ちを知りたいと心理学を。気象学や情報関連、ラテン語と興味の赴くままにエトセトラ。

学んだことのすべてが身についたわけではないですが、頭の片隅にヒョッコリと芽を出すこともあり、まさに継続は力なり。細々とでも続けることが大事だと思います。テストの緊張感や結果のドキドキ感も人生の良いエッセンスになっています。

母の死や、震災、水害といろいろありましたが、三男も社会人となり、今や私に根づいたレジリエンス。4回目卒業を目標に、まだまだ学びは続きます。

(山形のやさしさが好きな福島県民より)

心理と教育コース 柳澤 卓さん

私は定年退職後、すぐに放送大学に入学し、かなり長期になるが現在まで学習を続けてきた。今回5コース目の「心理と教育」を何とか卒業することができた。4月から6コース目の「情報」を学習している。内容的にかなり難しそうである。自分の集中力も弱くなっているが、楽しみながら少しずつ進みたいと思っている。

私は山形学習センター内にある学生サークルの「英語講読会」の会員でもある。コロナが治まりつつある昨年4月、学生だけの数人で再スタートした。英文小説の内容そのものの面白さと、自分たちそれぞれの考えや意見を出し合い、正確な読解を旨とするという楽しさがある。少なくとも現在使用しているテキストを終了するまで継続したいと考えている。

私は当分の間、「情報」と「英文読解」の2つを一歩ずつ楽しみながら取り組みたいと思っている。

学位記授与式にて想う

社会と産業コース 長沼 文明さん

わずかな向学心でT大学II部(夜間部)へ進学、「働きながら学ぶ」という理想と現実のはざままで、あつけなく中退という挫折感を味わったのは44年前のことでした。

5年前、39年間勤務した会社を早期退職し、最初にやろうと思ったのは「学ぶ」こと。新たな学びの場は先輩方の学ぶ意欲に刺激を受け、卒業までの5年間「充実した楽しい時間」を過ごしました。

2月の山形新聞に「思い出に励まされて」と題する五木寛之さんのコラムが掲載されていましたが、振り返れば、今の自分の「生き方・学ぶ意識」が、挫折感を拭い去ることができなかった苦々しい思い出の歳月に励まされてきたのであろうと想う「自己満足の学位記授与式」でありました。

安田所長の式辞のことは「卒業は終わりではなく、新たな挑戦の出発である」ことを自分のものにできるよう、新年度も学び・挑戦し続けたいと思います。

山形学習センターの皆様、同窓の皆様よろしくお願ひいたします。



令和5年度 第1学期入学者の集いを開催しました

令和5年4月15日(土)に山形学習センター講義室において「令和5年度第1学期入学者の集い」を開催しました。

はじめに、安田弘法所長から、入学者の皆さんにお祝いのあいさつがあり、その後、ガイダンスとして、センターの利用方法や修学上の注意事項等について、詳細な説明を行いました。

最後に、当センターに所属する5つのサークル(ゆうがくの会、英語講読会、パソコン教室、国文学を読む会、書道サークル)の代表者等から、各サークルの紹介と入会のご案内がありました。

当日は、対面11名、オンライン(Zoom)2名の計13名の出席がありました。





令和5年度 山形学習センター客員教員紹介



荒木 志伸

山形大学学術研究院 教授(学士課程基盤教育院)

専門:日本考古学

専門は日本考古学です。主に東北地方をフィールドとしており、奈良・平安時代の出土文字資料の研究や、山寺立石寺、出羽三山、松島瑞巖寺で江戸時代の石造文化財の調査をしています。昨年度は、面談や学びのサロンなど、多くの機会で皆さんと一緒にできて大変楽しかったです。歴史全般の内容をはじめ、気軽にお声がけください。今年もよろしくお祈いします。



近藤 慎一

山形大学学術研究院 教授(理学部担当)

専門:有機化学、分子認識化学

令和2年度から山形学習センターにお世話になって、今年で4年目になります。丁度Covid-19の流行期と重なっていましたが、ようやく日常が戻りつつあります。これを機会に新たな学びを始めませんか？学習相談がその一助になれば嬉しいです。ぜひ気軽に声を掛けてください。



佐藤 寿晃

山形県立保健医療大学 教授

専門:作業療法学、リハビリテーション学

客員教員をしております佐藤寿晃(さとうとしあき)です。3年目になります。

専門分野は、作業療法学、リハビリテーション全般です。今年の「学びのサロン」では「生活を支える福祉用具・住環境整備」を担当します。興味がありましたら、是非ご参加ください。



藤田 洋治

元 山形大学学術研究院 教授

専門:古典文学、国語教育

私は、職業柄ではないと思いますが、普段の生活の中でも好奇心を大切にしています。ちょっとしたことでも調べてみると、意外な歴史や事実がわかったりします。本来、学びというものもそんなものではないだろうかとも思っています。それは春の七草だったり、鯉のぼりだったり、いろいろです。そうして積み重なった小さな発見が、やがて大きな知的な財産になり、人生を豊かにしてくれるように思っています。今年度もよろしくお祈いします。



小泉 有紀子

山形大学学術研究院 准教授(人文社会科学部担当)

専門:英語学、心理言語学、英語教育

今年度着任しました小泉有紀子と申します。専門分野は英語学・心理言語学・英語教育で、人間の言語理解のメカニズムや、英語の学習法・指導法に興味があります。今回この機会をいただき、放送大学についてより知ってみると、授業だけではなく学生のみなさんが利用できる設備やサポート体制も充実しているなど感じています。私もその一員として、学び続ける皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。



関口 雄一

山形大学学術研究院 准教授(地域教育文化学部担当)

専門:教育臨床心理学

はじめまして。私は心理学の中でも子どもを対象とした臨床心理学を専門としています。子どもの心身の発達や、知能やパーソナリティに関する心理学の知見を応用して子ども達を支援することを目的として研究や教育を行っています。学問としての心理学にご関心のある方も対人援助の心理学にご関心のある方も学びのサロンなどで気軽に心理学に触れていただける機会を作りたいと考えています。ぜひ楽しい学びの時間を共有しましょう。



千葉 登

山形県立保健医療大学 准教授

専門:リハビリテーション学、身体障がい作業療法学

本年度入学の皆様おめでとうございます。現在、在学中の学生の皆様、計画通り学修は進んでいるでしょうか。少しでもお手伝いできることがありましたら、微力ながらご協力させていただきますのでご連絡ください。私の座右の銘は「凡事徹底」です。何かのための準備を常日頃からしていくという言葉ですが、知識の積み重ねも何かのためではなく何かあった時に役立つと思っています。今後も、私も皆様と同じように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。



半田 直子

山形県立保健医療大学 准教授

専門:看護技術、家族看護

客員教員2年目になりました。専門分野は看護学です。看護は人を思い、その人に必要な支援を考え実践する学問です。私の専門は看護技術、フィジカルアセスメント、家族看護です。皆様が学習を進める中で感じた疑問や問いを一緒に考え、学びを深めるお手伝いのできればと思っています。学ぶことで世界は広がります。今まで知らなかったことが「わかる!」ことの喜びを放送大学で実感してください。



山形SCサークルのとびら

英語講読会



英文小説の「シャーロックホームズの帰還」と「ジェーン・エア」の読解を楽しく、意見を出し合いながら進めています。小説の内容の面白さもあります。

毎月第2水曜日午前中が活動日ですが、毎回、次回が来るのが待ち遠しいくらいです。

現在5人前後で活動していますが、毎回10人くらいの参加だと、より活気が出ると思います。自分以外の人の考え方も大変参考になります。興味のある方は、体験的に参加してみてください。

書道サークル



書道サークルは令和2年度に創設しました。現在、会員13人で、月2回水曜日の午前中を基本に活動しています。

ほとんどが初心者で何十年と筆を持ったことがない方の集まりで、全くの基本から始まりました。進み方は各自のペースによります。各自の書きたい思いを大事にそれに近づけるような練習をしています。

会員からは自分だけの時間が持てる、仲間がいる、楽しい、うまくなった、そんな声が聞かれます。しんとした静けさの中にも時々和気あいあいとした和があります。

長い時間をかけて生涯学習として続けていけたらいいですね。書を暮らしの中でもっと身近なものにしてみませんか。

どうぞ気軽に見学にいらしてください。初心者大歓迎です。

※各サークルへの入会・体験参加や日程等については、SC事務局までお問い合わせください。

※各サークルの開催予定などは、SC「学生控室」内の掲示板でもお知らせしています。



安田所長の『ワクワク情報の小窓』



『ワクワク情報の小窓』は、山形学習センター(山形SC)が目指す3つのセンターのうち「人間学の学びのセンター」に関連する情報を中心に紹介します。今回は、「人間学:安岡教学に学ぶ(5)5月の始めに」と一昨年から始め、今年度も開講する「公開講演会:シリーズ人間学を学ぶ」について紹介します。

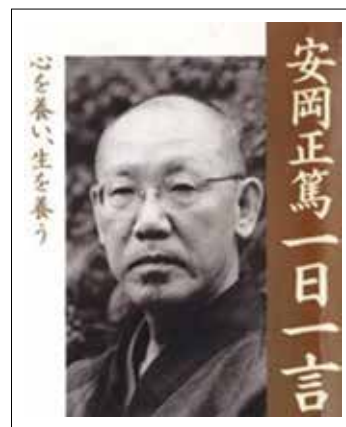
【人間学:安岡教学に学ぶ(5)5月の始めに】

「五悪」:盗賊より悪質な五つの問題がある。仕事がよく出来て、心険しいものが一。行が偏向して、しかも頑固なものが二。言ふことが実は偽で、しかも口が達者なのが三。くだらぬことばかり覚えて、しかも博識であるのが四。悪勢力に附いて、しかもよく恩を売るものが五。いずれも世を乱るものである。(荀子・宥坐)

「五善」:人として常に何が善かを問ひ、親しい仲を問ひ、礼儀を尽くすことを問ひ、政治の要を問ひ、患難を問ふ。これ実に人間味豊かな五善である。(左伝・襄公)

「五美」:人を恵んで厭味なく、労して怨みず、欲して^{むさぼ}貪らず、^{ゆた}泰かて驕らず、威あつて^{たげ}猛からずと。人は誠にかくありたいものである。(論語・堯曰)

(安岡正篤著、『郷研清話』、「5月の始めに」より)



安岡師は、「5月の始めに」との標題で、「五」にちなんだ、「五悪」、「五善」、「五美」を紹介しています。「五悪」の五つの悪質な問題を反面教師として心に留め、「五善」と「五美」の教えを心がけ、日々の生活を楽しみ精進したいと思います。

安岡師は、時事にふれ、思想を語り、同人の消息等を一枚の葉書に記し、全国の同人に郵送されました。これが語録集『郷研清話』です。

【公開講演会:シリーズ人間学を学ぶ】

一昨年から『公開講演会:シリーズ人間学を学ぶ』を開講しています。今年度も3名の講師から「人間学」を学ぶ予定です。

「人生を如何に生きるか」との命題は、私たちにとり重要な問題の一つです。しかし、私たちの多くは、毎日、忙しい生活に追われ、人生について考える時間が少ない状況で生活しています。『シリーズ人間学を学ぶ』の趣旨は、講演者が歩んできた人生等を紹介し、その学びを通じ、参加者の皆さんが自らの人生を考える一助にすることです。本講演会では、多くの皆さんが、忙しい中で生活している今、ちょっと立ち止まり少しの間、生涯の学びの一つ「生きること」を一緒に思索できれば嬉しく思います。

本年度第1回は、6月24日(土)午後1時30分から3時まで、山形SCで 山形大学名誉教授・元農学部長 粕淵 辰昭 氏から『妥協から創造は生まれない』の演題でご講演いただきます。講演概要は、『創造とは「新しいものを造りだすこと」です。大学を卒業して以降、農業に関わる研究に取り組んできました。研究は創造的な情報を生み出す作業といえます。これまで、身をもって学んだのは、「妥協から創造は生まれない」ということでした。「なぜ」、「どうして」、「どうする」と、詰めていくことを止めてしまえば、創造はできません。しかし、すべてにおいて「妥協しない」ことをおし通すことはできません。では、研究でだけは妥協せず、他のことでは妥協することでも、創造は可能なのでしょうか?』です。

また、第2回は、8月26日(土)に エム・エス・アイ代表取締役社長 金子 昌弘 氏より講演していただきます。多くの皆さんがこの「公開講演会」にご出席されることを期待しています。



話題の面接授業

山形学習センターでは「地域に学ぶ・現場に学ぶ」をモットーに、様々な施設の協力を受け、現地体験型授業の開講に努めています。

2022年12月17日・18日に山形美術館副館長兼学芸課長の岡部信幸氏と、学芸員の黒澤匠氏を講師にお迎えし、「地域と美術館」を開講しました。

今回は、2日目3時限と4時限に行った、山形美術館での現地見学について報告します。

3時限目は「山形美術館の空間をみる」ということで、岡部先生に担当していただきました。展示について、日本美術と西洋美術での違い、照明の工夫など、実際の展示を見ながら説明していただきました。

特別に、収蔵庫にも入らせていただき、貴重な作品を守るための留意事項、温度や湿度管理、災害への備えなどのお話も聞くことができました。

4時限目は「山形美術館の展示をみる」ということで、黒澤先生に担当していただきました。作品を収蔵する際のエピソードについて伺った際は、収集への熱意が伝わってきました。また、作者の方や作品との不思議なめぐり合わせなど、貴重なお話を聞くことができました。

このような現地体験型授業は各学期に数科目開講されています。人気がある授業ばかりですので、是非受講してください。



同窓会通信

山形同窓会は、平成19年(2007)9月1日に設立総会を行いました。同窓会創刊号に渡辺寿一代表は次のように書いています。全国で35番目の同窓会として誕生したものの、予想より会員が少なく案じていたところ、山形より会員が少ない府県の会があるので一安心、東北で2番目とは立派と言われますし、スタートはそんなものだと聞こえてきました。学部卒業生22人、大学院修了生8人での発足でした。現在の会員は82名です。

単位認定試験はインターネットを通じたWeb受験となり、お互いに顔を合わせる機会が少なくなりましたが、サークル活動や学びのサロンなどで交流が図られることを望んでいます。

北海道と東北6県持ち回りで、年1回交流会が行われます。山形県では平成29年に行われました。



すべてのお問合せ・資料請求・お申込みは

▶ インターネットでも出願や資料請求(無料)ができます! www.ouj.ac.jp

放送大学

検索

〒990-8580 山形市城南町1-1-1 霞城セントラル10階

放送大学山形学習センター

TEL 023-646-8836 FAX 023-646-8838

E-mail yng-sc@ouj.ac.jp

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/yamagata/>

